

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0790400535	
法人名	社会福祉法人 仁愛会	
事業所名	仁愛グループホーム (メープル)	
所在地	福島県いわき市平中平窪字扇田28番地	
自己評価作成日	平成27年7月6日	評価結果市町村受理日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigo-fukushima.info/fukushima/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 福祉ネットワーク
所在地	〒970-8232 福島県いわき市錦町大島2番地
訪問調査日	平成27年8月24日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

外観は西欧風の建物で、平屋の2ユニットになっており、敷地内は自由に歩くことができます。玄関に入ると清潔感溢れ落ち着いた雰囲気の特徴。一人ひとりの生活を知り、自然に触れ合える環境のもと、散歩など外出活動も積極的に行っています。共同生活住居以外にも多目的ホール(体育館)を完備しており、音楽療法やフラダンスの慰問、地元の中学校の福祉体験学習など地域交流の場となっております。また、平成27年の活動目標「利用者様の健康に留意し、年間を通じて風物詩の企画、実行」を実現できるよう日々サービス向上に取り組んでいます。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所内での手すりは、トイレと浴室だけに設置している。職員が、常に利用者の動作に合わせて見守り、介助をしている。職員は、利用者が自ら決めて動く事を大切に、声掛け等を工夫して、支援している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を 掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求 めていることをよく聴いており、信頼関係ができ ている (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面が ある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/> 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地 域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関 係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所 の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/> 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表 情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね 満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安な く過ごさせている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスに おおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟 な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域密着型サービスとは、どのようなサービスを提供すべきかを話し合い、全職員で理念構築を行いました。掲示板や職員が一番、目に入る場所へ貼り、常に理念を念頭に置きながら支援しています。	職員全員で話し合い作成した。職員は、いつでも確認できるよう、ネームの裏に入れ、迷ったら必ず確認している。また、毎朝の会議で、交替で、具体的な目標を出しあい、全員で取り組み評価し合い、より良い支援を目指している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	毎月グループホーム通信を発刊しており、ボランティアの募集など掲載し、配布しております。季節には近所の方から鈴虫を届けて頂き飼育しています。また、地元中学校からの体験学習の受け入れや市民総ぐるみ清掃、地域のお祭りへ参加するなど積極的に地域交流に取り組んでいます。	地域の隣組に加入している。回覧板で情報を得たり、事業所発行の通信を配布して、交流している。併設している多目的ホールの利用などを声掛けしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	入居の申し込みや見学者に対し、認知症に関する悩みや対応方法、必要性に応じ介護保険の利用方法などを説明しています。また、管理者はキャラバンメイトに登録しており、地域の認知症の理解や支援に努めています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	メンバー構成も充実しており、施設内での取り組みを報告し、活発な意見交換ができています。災害や地域の取り組み、行事予定等について話し合い、サービス向上に役立っています。	近くの三区長の参加協力があり、事業所の理解も得られている。会議では、事業報告や利用者の生活状況報告をしている。会議で、地域の福祉祭への参加をすすめられ、昨年参加して、楽しんでい	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営上での不明な点があればその都度、長寿介護課に助言などを頂き、情報交換を図っております。また、介護相談員派遣事業の受け入れや包括支援センター職員も運営推進会議に参加頂いております。	管理者はキャラバンメイトに登録している。介護相談員派遣を受けて、利用者に喜ばれている。包括支援センター職員との訪問、交流も多くある。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束廃止への知識を深める為、内部研修や身体拘束廃止マニュアルの整備を行い、正しく理解し安易な身体拘束は行わないケアに取り組んでいます。	法人全体で、管理者や主任の養成研修計画を立てて、外部研修に参加させている。内部研修は、毎月、定期的に行い職員全体のレベルアップを図っている。職員全員で見守りを徹底し、利用者一人ひとりの生活を支えている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	虐待廃止への知識を深める為、内部研修や虐待防止対応マニュアルの整備を行うなど防止対策に取り組んでいます。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	積極的に外部研修への参加を行っており、全職員に対して周知を図っています。また、家族との話し合いの中で必要に応じ行政と連携を図り、対応しています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約書・重要事項説明書に沿って解説し理解を頂くよう努力しています。又、不安や疑問があるかを尋ねながら説明を行い理解を図っています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	契約の際に苦情や要望の受付について説明します。第三者委員の設置、苦情解決委員会の開催により意見交換を行っています。常に利用者や家族からの意見や要望を反映させられる取り組みを実践しています。	家族の訪問時には、お茶を出しながら何でも話してもらえる雰囲気作りに留意している。たまには、外食の機会を作って欲しい、兄弟で近くの蕎麦屋へ行きたい等の要望にも速やかに対応している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月、全職員が集まる事業所会議や朝会議などで、現在問題となっている事柄について、話し合う機会を設けています。また、管理者が半年ごとに個別面接を行い、意見や提案を聴く機会を設け、反映させるよう努めています。	管理者は、働く人が目標を持てる職場作りを目指し、職員一人ひとりが意見や要望を出し易い環境作りに努めている。体調・シフト変更・夜勤の回数等、その都度個々の要望を聞き取り対応している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	法人としてキャリアパスや人事考課を実践し、定期的な面接により職員個々にあった目標設定、研修への参加、資格取得等、積極的に取り組んでおります。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	人事考課やキャリアパスに積極的であり、専門分野に関するチェックシート方式で定期的に作業手順の確認ができるシステムで、全職員が一定の知識習得できる工夫を行っております。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	法人内介護保険事業所の管理者が集まる管理者会議や、法人内事業所との合同研修の開催、外部研修への参加などを通じ、情報交換の場を増やしサービスの質を向上させる取り組みを行っております。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	施設見学又は、申し込みや相談を受けたあと、ご本人への実調を行い、生活状態・身体状況の把握を行い、気持ちや要望を受け止めるように努めています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	施設見学等の際に、プライバシーに配慮した環境のもと、ご家族の不安や困り事について傾聴し、状況把握や事業所のサービス内容の説明等を行い、不安の軽減に努めるように配慮しています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	担当ケアマネの情報提供や家族の思いや考えを把握し、必要に応じて介護保険サービスの説明や法人内サービス事業所を紹介するなど、必要なサービス提供ができる支援を心掛けています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は作業優先ではなく入居者と共にできることを常に探し、考え、毎日を送ることで関係構築を築きまます。また、コミュニケーションが困難な場合においても、利用者様からのアクションを受け止め共感し理解する事に努めております。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	毎月仁愛グループホーム通信によりイベント報告や予定をお知らせし、できるだけ参加頂けるよう発信しています。担当職員も、イベントや活動を写真撮影しコメントを記載し、ご家族へ郵送、報告しています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	契約の際にも、面会や外出、外泊について積極的な協力をお願いしています。個人が携帯電話を使用できるよう支援し、家族や友人と連絡が取れています。事業所に電話連絡が入った際も本人へお繋ぎしています。	家族・近所の人達が、採れた野菜や果物等の差し入れに日常的に訪問している。誕生日には家族と外食したり、利用者の希望で、お盆・お正月の他にも面会の後、一緒に帰宅、外泊する等、継続的に交流が出来ている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ケース記録により利用者様を深く知り、共同生活を支援し、個別や集団的な活動等を実施しています。また毎日の配席にも気を配り、関係作りに努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所や病院を退院後、解約になったケースであっても、希望に応じて再入所の支援を行う。また、介護保険サービス利用の相談や他事業所への紹介等も行います。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の訴えを傾聴し、家族の意向も含め、現実可能な限り実現することを念頭に置く取り組みを行っております。リスクマネジメント等について全職種で話し合い、日常生活に盛り込んだ活動を実践しています。	日々の表情・行動等を細かく記録している。全職員で共有、話し合いながら、言葉に出せない思いも推し量り、その人らしく過ごせる様、支援している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用者担当が中心となり、常に本人の要望やこれまでの生活について話し合っています。ご家族等の話も含め「活きがいのある生活」が提供できるよう利用者様一人ひとりがどの様な環境で生活されてきたかを知るように努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	電子化により、入居時から現在の状態、バイタルや家族情報を随時確認でき、問題が発生した場合など随時、毎日の朝会議にてサービスの見直しを行っております。また、ケース記録を充実させることにより、アセスメントや申し送り、定期的なカンファレンスの中で日々の暮らし方などを検討するなど努めています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	問題点を抽出するため、定期的又は随時のカンファレンスを開催します。その際にはモニタリング票の記入やケアチェックするなど、全職種で課題抽出し、意見やアイデアを出し合い検討しています。	担当職員が中心となり、日頃の関わりの中から、身体の動き・表情・言葉等を記録し、現況に即した計画作りを行っている。状況の変化に応じ、その都度見直している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	パソコン入力が随時できる環境を整えており、ケース記録やデータを適時、入力又は確認をしています。また、担当制を設け、個々の把握に努め、カンファレンス等に活かしています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	集団アクティビティは勿論、ご家族や本人の要望により、買い物やショッピング、外食、お花見、散歩など外出活動を実施しております。職員は常に今、何が必要かを考えいつでも実践できる柔軟な考えをもち、実践しています。		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営推進会議にて地域の情報の交換、収集を行い、ひとり一人の能力や要望を考慮した活動を取り入れています。ヤクルトの訪問販売や地域のお店へ買い物や外食をするなど実施しています。実際にお店で買い物し、お金の支払いを行うことなどによる生活リハビリを実践しています。			
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人、家族の要望により、かかりつけ医を決め、定期的な往診又は、必要に応じて協力医療機関と連携を図り、適切な医療を支援しています。また、必要に応じては歯科受診なども対応します。	内科は、協力医療機関の、週一回の往診を受けている。専門科の受診については、本人や家族の希望に合わせて支援している。近くに、協力的な歯科医院があり、利用者に喜ばれている。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	常に利用者様の健康状態を把握するため、毎朝のバイタル測定、排尿排便チェック等の観察を行い、看護員へ報告、必要に応じて協力医療機関、法人内事業所と連携を図り、往診や受診を支援しています。			
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時の面会や、退院後の生活について話し合い、入院期間中のグループホームの契約内容の再確認も行います。病院関係者との面談には、契約内容に関する理解を求め、退院に向けた話し合いなどを行います。			
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	あらかじめ入居前契約の際に、グループホームにおいて対応可能な範囲の説明や看取り介護指針について説明します。必要な状態に応じて法人内事業所、協力医療機関と連携を図り、状況に伴ったサービス展開することを説明のうえ、同意いただく支援をしています。	事業所入所前に、家族にきちんと説明して理解を得ている。その上で、家族の要望を聞き、事業所内での看取りをする事もある。法人内の医療機関や医師の協力を受けて、できるだけ、本人や家族の希望に寄り添い、支援している。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	全職員が普通救命講習修了者であり、リスクマネジメントを中心とした、急変や事故対応に備えた緊急シミュレーションを定期的に行っています。介護員は「ひやり・はつと報告書」、「事故報告書」の内容を精査し研修に活用しています。			
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	夜間を想定した総合防災訓練を年2回、避難誘導訓練を年2回、避難誘導シミュレーションを年1回、火災以外の災害に備えた災害シミュレーションを年1回、年間6回の訓練を実施。運営推進会議において、消防団との合同訓練や応援体制、協力についても話し合いを行っています。また、自家発電機や食料等の備蓄も備えております。	事業所開所間もなく震災があり、二年前の大雨で、床上浸水し、排水を見直して修復した。法人全体で、減災に取り組み、職員全員は、訓練に真剣に参加して、安心、安全を心がけている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	常に利用者様の尊厳を守り、言葉遣い、態度に気を付けています。声を掛ける際には利用者様と同じ目線に合わせるように心掛けております。また、トイレ誘導時には他の利用者様に分からないように本人の傍に行き声を掛けたり、失禁時には本人が傷つかないような声掛けをしております。	職員は、利用者が、自分の意思で動き出すような声掛けを、常に意識し、工夫している。そして、すぐに介助できる位置に寄り添い、介助している。利用者自身が決める力を、すこしでも維持していく事を大切にして、取り組んで支援している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者様の希望には可能な限り対応しています。利用者様の声に耳を傾け、希望が実現出来る様に努めております。また、選択肢を簡単に出来ただけ自己決定しやすい声掛けを心掛けております。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	アクティビティや入浴等のスケジュールはありますが、利用者様の希望や体調に合わせて柔軟に対応しています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	職員が季節に合った衣類を準備し、利用者様に好きな服を着て頂ける様に支援しています。重ね着等がされている時には利用者様の気持ちを傷つけないような対応し着替えをして頂くようにしております。定期的に髭剃り、爪切りをしています。散髪は訪問理容を利用しています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者様と職員が同じテーブルで、会話をしながら楽しい食事をしております。出来るだけ利用者様と一緒に、片付けや食事の準備も行っております。	利用者が、庭で育てた野菜を利用した一品を添えたり、近隣人や家族から届けられた食材を使い季節感のある料理を用意している。利用者は、職員と一緒に会話しながら、笑顔で食事している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量や水分摂取量はチェックシートにより把握し、栄養や水分が不足しない様にしています。食欲不振時にはゼリー等や食べやすい物を召し上がって頂いております。またご家族様より、好きな物を差し入れて頂いております。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアを実施しております。一人一人の状態やペースに合わせて支援しています。また、義歯の方には毎日ポリドント洗浄を行っています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表で排泄パターンを把握し、誘導の声掛けをしています。体調等を考慮してポータブルトイレを使用し排泄出来る様に支援しています。	チェック表を使用し、個々の便や尿の回数を細かく記録し、自立心に繋がるよう、声掛けを工夫しながら誘導している。夜間はポータブルトイレを使用、おむつの利用を少なくしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘予防の為、利用者様一人一人に合わせヤクルトや牛乳の提供を行っております。また、散歩や体操などの運動を行っております。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	一般浴(月、水、金)・機械浴(火、木、土)と決まっておりますが、利用者様の体調不良時や利用者様の希望により入浴を変更する場合があります。季節によって、ゆず湯やみかん風呂を行っております。	おやつに食べたミカンの皮を干し、自分達で縫ったガーゼの袋に入れ、昔ながらの入浴剤として楽しみながら利用している。仲の良い利用者同士で一緒に入ったり、困難な場合は、言葉掛け・職員を変える等の工夫をしながら、支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	就寝、起床時間は個々利用者様のペースに合わせています。また、利用者様の体調などにより居室で休んで頂きます。安眠して頂ける様に湿度や温度等、環境に配慮しています。騒音等にも気を付けております。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の説明書をファイルに綴りいつでも内容が確認出来る様にしております。服薬介助の際はマニュアルに沿って誤薬がない様に確実にしております。定期薬以外を服用後は症状の変化を確認しております。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者様一人一人の能力に合わせて家事活動や園芸等を行い、役割を持って頂いております。また散歩や買い物、外食等を利用者様の要望に応じて行い、楽しみや喜びを感じて頂ける様に対応しております。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	個別アクティビティとして、散歩や希望に沿った季節の行事等により利用者様との外出を行っています。また、歯科受診の付き添い等も行ってあります。ご家族様の協力により、医療機関、買い物などへの外出もされています。	事業所周りの散歩や、野菜・花の手入れ、庭の草引き等、日常的に戸外へ出て気分転換を図っている。年間の行事として、小川のしだれ桜を見に行ったり、地元のお祭りに参加する等、季節ごとに楽しみを工夫している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金の所持が可能な利用者様には、お金を自己管理して頂く様に支援しております。また、ヤクルト販売等では買い物の楽しみや、ご自分で支払って頂く事による、自立支援をしております。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	施設の電話又は、携帯電話を所持して頂きご家族様や友人様と自由に連絡を取って頂いております。また、返事の手紙を書き、大切な人と手紙のやり取りなども支援しております。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有スペースは照明、装飾品に気を配り明るい雰囲気作りを心掛けています。温度、湿度にも気を配り過ごしやすい環境作りを行っています。季節に合った飾り付けを利用者様と一緒に楽しみながら行っています。定期的にフロアのレイアウトを変えております。	室内は清掃が行き届き、温度・湿度も管理されている。広く明るい廊下やフロアの壁には、利用者と職員で作った作品が飾られている。廊下には手すりを設けず、常に近くにおいて、寄り添うケアを実践している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有スペースにソファを置き、気の合う利用者様同士が交流出来る場所を作っています。食事などの配席は、利用者様の関係性を考慮して行っています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室、或いは泊まりの部屋は、プライバシーを大切にし本人や家族と相談しながら、居心地よく、安心して過ごせる環境整備の配慮がされている。 (グループホームの場合)利用者一人ひとりの居室について、馴染みの物を活かしてその人らしく暮らせる部屋となるよう配慮されている。	出来るだけ利用者様が使い慣れた家具や布団、枕などを持って来て頂いて今までと変わりなく生活して頂ける様にしております。利用者様がくつろぐ事が出来る空間、環境作りを行っています。	部屋の温度・湿度の管理は、エアコンの風が直接身体に当たらない様、風向きを工夫しながら行っている。利用者一人ひとりの動きに応じて、ダンスやベット、ポータブルトイレの配置を変え、居心地の良い居室を作り、自立に繋げている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレや居室等を分かりやすい表示をしており、利用者様をご自分で利用しやすくしております。また、施設内はバリアフリーになっており車椅子でも走行しやすい環境になっております。ドアは利用者様が安全で自立して使用出来る様にスライド式になっております。		